

## 関西における「新たな公」について

## 「新たな公」が求められる背景

個人・NPO・企業など多様な民間主体を地域づくりの担い手にとらえ、それら相互、あるいは行政と連携することで、「新たな公」としての役割が期待される。

## 地域を取り巻く課題

## 行政

- ◆人口減少・高齢化等の経済社会情勢の変化
  - ・社会的サービス継続の困難化
  - ・きめ細かな対応への限界

## 個人、NPO、企業等

- ◆活動領域や活動形態の多様化・高度化
  - ・社会貢献を通じた満足度の向上
  - ・公共的価値の創出

地域づくりにおける「新たな公」への期待

# 「新たな公」が担う領域

個人・NPO・企業など多様な主体が担い手となる「新たな公」は、その対象分野もこれまでの公私双方の領域にまたがり多様。

## ■従来は行政が担ってきた領域



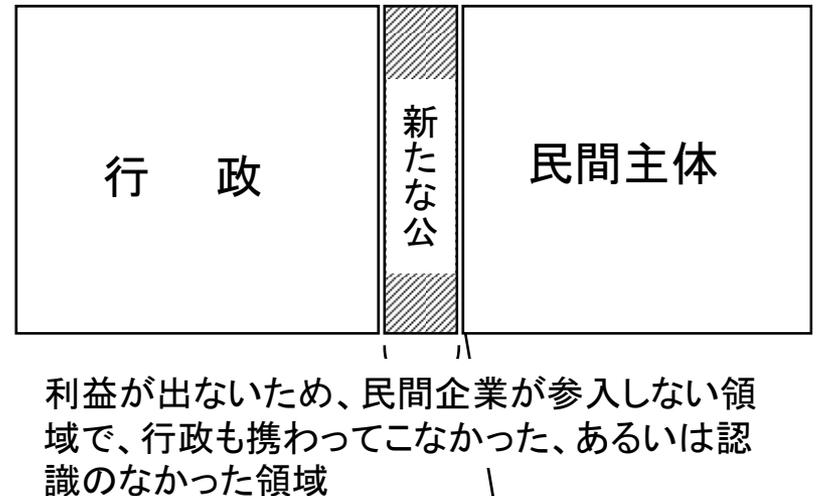
財政の制約や、多様なニーズへの対応の限界により、行政だけで担うことが困難になった領域

例

- ・道路清掃、植栽・花壇等の管理
- ・地域による民間交番

など

## ■行政も民間主体も担ってこなかった領域



多様なニーズへの対応

例

- ・市民が費用負担して運営するコミュニティバス
- ・観光資源などの語り部、ボランティア活動

など

# 全国計画における「新たな公」の定義（抜粋）

多様な主体が協働し、従来の公の領域に加え、公共的価値を含む私の領域や、公と私との中間的な領域にその活動を広げ、地域住民の生活を支え、地域活力を維持する機能を果たしていくという、いわば「新たな公」と呼ぶべき考え方で地域づくりに取り組んでいく。

（中略）

これまでの公及び私の領域の関係を下に整理すれば、

- ア. 従来の公の領域で行政が担ってきた活動分野を、民間主体が主体的に担うもの  
（例：自治会や企業が行う道路清掃等の管理）
- イ. 行政も民間主体も担ってこなかった分野であるが、時代の変化の中で新たな需要が生じてきたことにより、対応が必要となってきたもの  
（例：地域住民が主体となって参画するコミュニティバスの運行や、公共交通のない地域でNPO法人等が行う自家用自動車を使用した運送サービス）
- ウ. 従来の私の領域で民間主体が担う活動分野であるが、同時に、公共的価値を含むもの  
（例：空き店舗を活用した中心市街地の活性化）

となる。

# 関西における「新たな公」の取組事例

1/2

近畿圏の目指す姿	新たな公の取組 例
<p>(1) 歴史・文化に誇りとこだわりを持って本物を産み育む圏域</p>	<p>(地域資源の保存・継承) 文化財等でないため自治体から保護されにくい「農村舞台」を地域住民の保存会が修復や補修の保存活動を行うとともに、舞台公演を運営。</p>
	<p>(観光ボランティア) 観光客等に対して個別の店舗紹介などの地域紹介を目的に住民による自発的・自主的な観光ガイド活動を行う「地元観光ガイドボランティア組織」が発足。</p>
<p>(2) 首都圏とは異なる多様な価値が集積する日本のもう一つの中心核</p>	
<p>(3) アジアをリードする世界に冠たる創造・交流拠点</p>	<p>(若年者就労と産業支援) 企業の人材確保においては、若年者は大企業志向が強く、企業の採用方針は新卒又は即戦力志向。このミスマッチを解消するため、民が主体となって正社員を目指す若者への相談から職業紹介、中小企業への採用コンサルティングまでをワンストップでサポート。</p>
<p>(4) 人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進圏域</p>	<p>(森・川・海的环境保全) 森は海の恋人と言われるように、健全な森を維持・造成することにより、森・川・海を通じた漁場環境の保全が図られる。このため、漁業者やNPOによる広葉樹林化や植林活動が実施されている。</p>
	<p>(環境産業の創出) NPO、観光協会、企業、行政等が協働し、地域資源である木質バイオマスの活用を推進するとともに、視察を産業観光として観光客誘致に結びつけるなど、新産業創出による新たな地域づくりに取り組んでいる。</p>
	<p>(市民による循環型社会) 資源循環型社会を目指し、一般家庭等からの廃食用油をリサイクルしたバイオディーゼル燃料をごみ収集車、市バスに導入。</p>

# 関西における「新たな公」の取組事例

2/2

近畿圏の目指す姿	新たな公の取組 例
<p>(5) 都市的魅力と自然的魅力を日常的に享受できる圏域</p>	<p>(魅力ある都市の実現) まちづくりやまちの管理運営を財源(徴収権)をとまなうシティ(タウン)マネジメント組織(官民)により機動的に行うことで、まちが目指す方向性や美しい景観等を実現(海外事例)</p>
	<p>(環境保全と自然の魅力向上) 住民ボランティアグループが放置された竹林の間伐を行い、水資源の涵養を図るとともに、地域独特のタケノコ栽培の技術を習得。あわせて竹林への遊歩道も整備。</p>
	<p>(都市田舎交流の橋渡し) 都市から地方への移住などに関心が高まる中で、都市住民に対する「空き家などの情報提供」「田舎暮らしの体験機会の提供」「住宅の斡旋」などを実施するために、民間が主体となった組織が、地元自治体との連携を図りつつ、都市住民のニーズと地方のニーズのつなぎ役となり、移住などの交流を実現。</p>
<p>(6) 人々が自律して快適で豊かに暮らせる高福祉圏域</p>	<p>(地域による教育・子育て) 教師が不足するなかで、教育を充実させるため、放課後や長期休業中に、公民館や児童館など子どもが集まる場所で市民、企業、NPO等により「寺子屋」的な教室等の開催。</p>
	<p>(地域コミュニティづくり) 新たに建設されたマンションへの居住者が、町内会で孤立しないように配慮することなどを内容とした「新規マンションへの町内会対応マニュアル」を策定。マンションの子供のための地蔵盆を開催するなど、新旧調和のまちづくりを実現。</p>
<p>(7) 暮らし・産業を支える災害に強い安全・安心圏域</p>	<p>(市民文化財レスキュー体制) 世界に誇る京都の文化財を火災から守り、後世に継承するため、消防隊が到着するまでの初期消火活動を文化財の関係者とその地域の方々が協力して実践的な消防訓練を行い、消防・消火活動が行えるよう備えている。</p>

# 「新たな公」を支援するしくみ

- ・「新たな公」の取り組みには、担い手の確保が不可欠。
- ・地域の主体自らが担い手となるとともに、多様な主体の連携による支援が必要。

